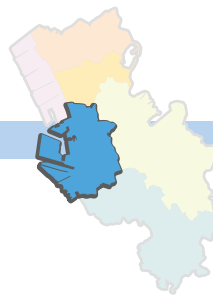


# 中央区



## 現況と課題

## ●人口・世帯数

(単位：人、世帯)

区分	1995年 (H7)	2015年 (H27)
人 口	167,663	170,000
世帯数	68,909	75,000

1995年（平成7年）10月1日現在の中央区の人口は167,663人（全市の19.6%）、世帯数は68,909世帯（全市の21.8%）であり、人口は第2位、世帯数は第1位の規模となっています。

## ●土地利用

本市の南西部に位置し、面積は44.81km<sup>2</sup>であり、区の西部は東京湾に面し、南部は市原市に接しています。

本区は、政治・経済・文化の中心として、商業・業務機能等様々な都市機能が集積しており、本市の中心拠点として、さらに一層魅力ある都心機能の充実が求められています。

また、市内で最も市街化が進んでおり、都市的土地利用については、工業用地の割合が約22%と最も高く、次いで住宅用地が約20%となっています。



千葉ポートタワー

商業用地の割合は、市全体の商業用地の約3割を占め、商業機能の集積が高くなっています。  
田・畑地の割合は約6%となっています。

## ●生活環境

本市の玄関口であるJR千葉駅は、県内の鉄道の結節点であり、バス路線網が集中しています。また、千葉都市モノレールの開通により、都市内交通の円滑化が図られています。

千葉公園、亥鼻公園、青葉の森公園、千葉ポートパーク等個性的な公園があり、プロムナードの整備と併せて、うるおいのある都市空間の形成が図られています。また、区の東部には、まとまった自然緑地が多く見られます。

都心部に交通量が集中するため、交通渋滞や違法駐車などの問題が発生しているとともに、JR千葉駅など駅周辺の放置自転車対策も課題となっています。また、交通量の増大等により大気汚染の著しい地区も見られます。

都市化の進展に伴う雨水流出量の増加により、河川整備等の浸水対策が必要となっています。

区南部の既成市街地は、中心部と比較して、都市基盤の整備水準が低くなっています。



千葉駅前



# 中央区

## ●産業

1995年（平成7年）の本区の従業者数を見ますと、サービス業、卸売・小売・飲食業がそれぞれ約26～27％を占め、次いで建設業が約11％、製造業が約9％となっています。

本区は、工業の集積度が最も高く、1997年（平成9年）末で、市内の工業事業所数の約20％、従業者数の約24％が集中し、製品出荷額は約39％を占めています。特に臨海部は、京葉工業地帯の一角を形成し、併せてわが国屈指の貿易港である千葉港を擁し、経済活動の拠点となっていますが、大規模工場の主要施設が

沖合の隣接地へ移転・集約化することが明らかになっており、その跡地の有効利用を図る必要があります。

また、商業は、その多くが都心部に集積し、市内最大の商業・サービスの拠点となっていますが、近年、大型店の郊外進出などにより、都心部の商業地域の空洞化が問題となっており、商店街環境整備など活性化対策が求められています。

農業従事者数は非常に少ないですが、一部地域で果樹、花き等の都市型農業が営まれています。



県都の中心地区として、都心機能の整備・充実を図り、本市の顔としての魅力の向上に努めるとともに、多くの人々が集まり、活力や文化を発信するまちづくりを推進し、次の将来像の実現を目指します。

## 「うるおいと活気に満ちた 文化の香り高いまち 中央区」



千葉公園



中央公園プロムナード

## 施策の展開

### ●千葉都心の整備

本市の顔となるよう千葉都心の整備に努め、特にJR千葉駅周辺地区においては、本市の玄関口にふさわしいまちづくりを推進します。

また、既成都心地区と新業務地区との連携を図りながら、都市機能の強化・育成に努めるとともに、商店街の回遊性の向上等中心市街地の活性化を図るなど、地域特性に配慮した賑わいと魅力あるまちづくりを進めます。

### ●蘇我副都心の整備

蘇我地区は、JR京葉線、内・外房線の結節点であるJR蘇我駅周辺と臨海部地区との連携を図りながら、新たな都市機能の強化に努め、千葉都心、幕張新都心に次ぐ蘇我副都心として育成・整備を進めます。

### ●千葉港の魅力の向上

蘇我副都心の臨海部地区の整備や千葉中央港土地区画整理事業の促進、千葉ポートタワーの施設の充実等により、市民の集いや憩いの場を整備・充実し、千葉港の魅力向上を図ります。

### ●安全で快適な生活環境の整備

誰もが安心して暮らすことができるよう、歩道の整備、電線類の地中化など道路環境の整備・充実や、既成の密集市街地の住環境の改善を図るとともに、駅周辺等における自転車の放置やごみの投げ捨ての防止対策を強化します。

地域の快適空間となる緑地等の保全や公園整備を進めるとともに、市街地の緑化を推進し、良好な都市環境の形成に努めます。

また、河川の一層の浄化を進めるとともに、

自動車交通の増加等による大気汚染を防止するため、監視体制の強化等の対策を推進します。

公共下水道や道路網等の都市基盤の整備を進め、良好な居住空間の形成を図るとともに、河川改修や雨水幹線の整備、雨水貯留浸透施設の設置など浸水対策を図り、災害に強いまちづくりを進めます。

都心部の交通の円滑化を図るため、道路網や駐車場等の整備を進めます。

### ●文化の振興

多くの文化施設等の集積した利点を活かし、各種文化事業の充実や区民の文化活動の振興を図るとともに、区内の史跡や文化財の保存・活用に努め、文化の香り高いまちづくりを進めます。

### ●地域商業の育成

区内に形成されている地域商店街の機能の強化と活性化を図ります。

### ●地域コミュニティの振興

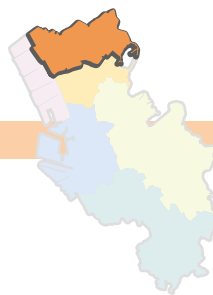
コミュニティセンター等の市民交流施設の活用、\*区民ふれあい事業などにより、区民相互の交流や連帯意識の高揚を図ります。



中央公園イルミネーション



# 花見川区



## 現況と課題

### ●人口・世帯数

(単位：人、世帯)

区分	1995年 (H7)	2015年 (H27)
人 口	177,783	192,000
世帯数	65,336	77,000

1995年（平成7年）10月1日現在の花見川区の人口は177,783人（全市の20.7%）、世帯数は65,336世帯（全市の20.6%）であり、人口は第1位、世帯数は第2位の規模となっています。

### ●土地利用

本市の北部に位置し、面積は34.24km<sup>2</sup>であり、区の北部は八千代市、北東部は佐倉市及び四街道市、西部は習志野市に接しています。

区の中央を自然景観のあふれる花見川が流れており、優良な農地や山林など豊かな緑に恵まれた土地利用と、市街化の進展に伴う都市的土地利用が混在しています。

区の面積の約25%は住宅用地であり、次いで畑地が約18%を占めています。また、花見川流域などに水田地帯がみられ、その田地の割

合は約6%となっており、商業・工業用地と同じ割合となっています。

### ●生活環境

高度成長期に大規模住宅団地の建設が進められたこともあり、市内では最も人口の多い区となっていますが、大規模住宅団地の老朽化が進んでいることから、その対応が求められています。

区内を東西方向にJR総武線や京成電鉄千葉線、京葉道路が通っていますが、南北方向の交通体系が十分とは言えず、また、幕張新都心や千葉都心とのつながりも弱くなっており、交通網の整備・充実が求められています。

都市基盤整備のうち、下水道等については一部未整備地域があることから、その整備を図っていく必要があります。

また、豊かな緑と花見川流域の自然を活かした花島公園等、特色ある公園整備を現在進めています。区民一人あたりの公園面積が市平均と比較して少ないため、計画的な公園整備が求められています。



花見川サイクリングコース



ふるさと農園



# 花見川区

## ●産業

1995年（平成7年）の本区の従業者数を見ますと、サービス業、卸売・小売・飲食業がそれぞれ約25～26％を占め、次いで製造業、建設業が約15％ずつとなっています。

花見川沿いに優良な農地があり、野菜を中心とした都市型農業が営まれ、本市の農産生産の重要な役割を担っています。今後とも、地域特性を活かした農業の振興が求められています。

工業については、内陸部に中小企業を中心とした工業団地があり、主に金属製造業や機械製造業の工場が集まっていますが、その集積は小規模なものとなっています。

また、商業は、相当数の購買力が区外に流出しているものとみられ、その活性化が必要となっています。

## 区<sup>4</sup>の 将来像

花見川の緑豊かな河川空間を区のシンボルゾーンとして保全・活用しながら区民の交流を促進するとともに、地域活性化のための新たな施策展開を図り、次の将来像の実現を目指します。

「川と緑の魅力が活きる  
心と心の通うまち 花見川区」



花見川



花島公園

## 施策の展開

### ●河川空間の保全と活用

花見川とその周辺の自然環境を、区民が誇りを持てるシンボルゾーンとして位置付け、その保全と活用を図ります。

また、花島公園の整備を進めるとともに、花見川サイクリングコース沿線をフラワー散歩道として整備を進め、区民の憩いの場や交流の場としての活用を図り、地域に残された里山など豊かな自然と快適な都市生活を享受することのできる生活空間の形成に努めます。

### ●安全で快適な生活環境の整備

道路や公共下水道等の都市基盤の計画的な整備を推進し、安全で快適な生活環境の充実を図ります。

老朽化が進む大規模住宅団地の住環境の改善を図るとともに、高齢者等に配慮したまちづくりや、心の通い合う地域コミュニティの育成を図ります。

地域の快適空間となる緑地等の保全や公園整備を進めるとともに、市街地の緑化を推進し、良好な都市環境の形成に努めます。

河川改修や都市下水路の整備など浸水対策を図るとともに、消防署所の整備・充実など、安全で災害に強いまちづくりを進めます。

### ●区内交流の促進

南北間の連携や幕張新都心・千葉都心との結びつきを強め、区の活性化を図ります。このため、区内の幹線道路や生活道路を整備するとともに、地域コミュニティ育成の拠点施設である

コミュニティセンターや、地区の図書館・スポーツ施設などの整備を進めます。

また、花見川をはじめとする豊かな自然やサイクリングコース、区民交流施設等の地域資源を活かした活動機会の創出など、区内交流の一層の促進を図ります。

貴重な緑地環境への関心の高まりを踏まえ、農地・森林等の限られた資源を有効に利用し、都市と農村の交流を通じて地域の活性化を図ります。

また、市民が気軽に農業が体験できる市民農園等の整備を推進します。

### ●産業の育成

新鮮で高品質な地場農産物を安定的に供給するため、生産基盤の強化を図ります。

また、環境保全型農業を普及促進し、環境への負荷の軽減に配慮した農業の振興を図ります。

内陸工業団地の環境整備を促進するとともに、工業の高度化を進めます。

区中心拠点、地域拠点の商業機能の充実に努めるとともに、地域商店街の活性化を進めます。



瑞穂周辺の街並み



# 稲毛区



## 現況と課題

## ●人口・世帯数

(単位：人、世帯)

区分	1995年 (H7)	2015年 (H27)
人 口	150,657	155,000
世帯数	57,639	64,000

1995年（平成7年）10月1日現在の稲毛区の人口は150,657人（全市の17.6%）、世帯数は57,639世帯（全市の18.2%）であり、人口、世帯数いずれも第3位となっています。

## ●土地利用

本市の北西部に位置し、面積は21.25km<sup>2</sup>であり、区の北東部は四街道市に接している地域です。北部地域の一部を除き、区域のほとんどが市街化区域となっています。

また、住宅用地が約32%と最も広い割合を占めていますが、畑地は約11%、山林は約5%と市全体と比較すると少なくなっています。

区役所からJR西千葉駅にかけては、千葉大学などの高等教育機関や研究施設等が集積し、文教地区を形成しています。

JR稲毛駅周辺は、商業機能の集積が進み、区を中心として発展を遂げてきましたが、近年、大型店の郊外進出などによる影響が見受けられ、商店街環境整備など活性化対策が求められています。

長沼町周辺の内陸部には、一般機械、金属製品を中心とする工業団地が形成されています。

## ●生活環境

人口密度は市内で最も高い区であり、特に京葉道路より南の地域に集中しています。

区内をJR総武線、京成電鉄千葉線、千葉都市モノレール、京葉道路、東関東自動車道水戸線等が通っており、市民の重要な交通手段となっています。

また、大学の立地数も多く、図書館や公民館などの文教施設も整備されています。

区の中央部・南部地域については、都市基盤の整備も進んでいますが、北部地域は、公共下水道の整備や緑地の保全など調和と均衡のとれた発展を図る必要があります。

また、区内には昭和30・40年代に建設された住宅団地があり、これらが建て替え時期を迎えるため、この対応が求められています。

市内最大のスポーツ施設である千葉県総合運動場があり、スポーツ・レクリエーション活動の拠点となっています。また、総合公園がないため、整備が求められています。

一方、稲毛浅間神社の神楽や駒形大仏等の文化財も多く、今日まで歴史・伝統を伝え続けています。



市民ギャラリー・いなげ



# 稲毛区

## ●産業

1995年（平成7年）の本区の従業者数を見ますと、サービス業、卸売・小売・飲食業がそれぞれ約3割を占め、次いで製造業が約15%、建設業が約11%となっています。

農業従事者は他区と比較して少ないですが、北部に花き栽培農家や酪農家が点在しています。

工業については、1997年（平成9年）末で、市内の工業事業所数の約20%、従業者数は約16%、製品出荷額は約18%となっています。また、内陸部には主に比較的小規模な一般機械・金属製品製造業が集積している工業団地が形成されています。

商業については、地域拠点であるJR稲毛駅周辺に集積が見られるものの、駅周辺以外は比較的集積が少ない状況にあります。

## 区<sup>4</sup>の 将来像

良好な教育環境のもと、地区に根ざした文化をはぐくみ、緑のあるやすらぎのまちづくりに努め、安全で快適な生活環境の整備、活力あふれる産業の振興を図り、次の将来像の実現を目指します。

「自然をはぐくみ 皆が交流する  
文教のまち 稲毛区」



浅間神社



千葉大学キャンパス

## 施策の展開

### ●安全で快適な生活環境の整備

本区内陸部から美浜区臨海部へ連絡する道路網の整備や区内の道路整備を推進するとともに、拠点地区や公共公益施設へのアクセスを強化する道路整備を推進します。

JR稲毛駅周辺整備について検討を進め、計画的に整備を図ります。

快適な生活環境の創出や健全な都市活動を確保するため、公共下水道の整備を推進します。

地域コミュニティ育成の拠点施設であるコミュニティセンターを整備するとともに、※区民ふれあい事業を展開し、区民意識の醸成及び地域の活性化を図ります。

地域の快適空間となる緑地等の保全や公園整備を進めるほか、市街地内の緑化を推進するとともに、骨格となる道路及び沿道への緑化に努め、緑豊かな軸の形成を図ります。

多様な動植物が生息・生育できる緑地を保全・復元することにより、市民が自然環境にふれあい、環境学習・環境活動を行う場として、自然生態観察公園を整備します。



千葉県総合運動場

また、総合的なレクリエーション利用の拠点や災害時の広域避難場所となる総合公園の整備に取り組みます。

貴重な緑地環境への関心の高まりを踏まえ、農地・森林等の限られた資源を有効に活用し、都市と農村の交流を通じて地域の活性化を図るため、市民が気軽に農業体験のできる市民農園等の整備を図ります。

### ●活力ある産業の振興

都市農業の振興に努めるとともに、優良農地の保全、農業基盤の整備等に努めます。また、環境保全型農業を普及促進し、環境への負荷の軽減に配慮した農業の振興を図ります。

また、内陸工業団地の環境整備を促進するとともに工業の高度化を進めます。

JR稲毛駅周辺等の商業機能の充実に努めるとともに、地域商店街の活性化を進めます。

### ●地区に根ざした文化の育成

本区に立地する千葉大学などの高等教育機関・研究施設等と連携し、文化の香り高いまちづくりを進めます。

このため、高等教育機関等の市民等との連携を促進し、市民の文化的交流を進めます。

日常的な活動・発表・鑑賞の場として、地域の特性を生かした文化施設整備を進めるとともに、民間施設の積極的な活用を図ります。



JR稲毛駅前



# 若葉区



## 現況と課題

## ●人口・世帯数

(単位：人、世帯)

区分	1995年 (H7)	2015年 (H27)
人口	149,263	163,000
世帯数	52,402	63,000

1995年（平成7年）10月1日現在の若葉区の人口は149,263人（全市の17.4％）、世帯数は52,402世帯（全市の16.6％）であり、人口、世帯数いずれも第4位となっています。

## ●土地利用

本市の北東部に位置し、面積は84.21km<sup>2</sup>であり、6区の中で最大の面積を有しています。

用途別では、山林の割合が約30％と最も高く、次いで畑地の約21％、住宅用地の約14％、田地の約7％の順となっています。

土地利用は、千城台・大宮台を境に東部地域と西部地域で大きく区分でき、東部地域は、主に畑地・林地の間に集落がまばらに分布する台地と谷津田として利用されている鹿島川・都川の河谷低地から構成されています。

本区には本市における農業振興地約2,200haのおよそ半分が分布していますが、そのほとんどがこの東部地域にあります。

一方、西部地域は、JR総武本線及び千葉都市モノレール沿線に宅地開発が進行している地域で、JR都賀駅の西側にはみつわ台や都賀の台、東側には小倉台や千城台などの大規模な住宅地が造成されています。

## ●生活環境

区の北西部をJR総武本線が通っており、市中心部や東京都心部とを結ぶ交通の重要な軸となっています。また、区の西部地区を東西に千葉都市モノレールが走り、JR都賀駅で接続され、内陸部の千城台や小倉台団地などの人々の重要な交通手段となっており、JR千葉駅、千葉みなと駅と結んでいます。

道路は、市中心部に向けての主要な道路として国道51号、千葉東金道路、国道126号などがあります。

なお、交通体系は改善されつつあるものの、千葉都心までの利便性という観点から、より一層の道路整備などが求められています。

また、市街化の進展等に伴いJR都賀駅周辺及び千城台を中心に商業の集積が見られますが、大型店舗の進出により小売店は相対的に停滞傾向で、商店街の活性化が必要となっています。

北西端の稲毛区との境界には市民の憩いの場となっている動物公園が立地し、小倉台の谷地を挟んだ東側には、世界的に有名な縄文遺跡である加曽利貝塚があります。

また、泉自然公園をはじめとして市民のレクリエーションの場となる公園も整備され、自然的景観が多く残されていますが、その反面、交通網や上下水道など都市基盤の整備水準が他区に比べ相対的に低くなっています。



加曽利貝塚博物館



# 若葉区

## ●産業

1995年（平成7年）の本区の従業者数を見ますと、サービス業、卸売・小売・飲食業がそれぞれ約27～28％を占め、次いで建設業が約19％、製造業が約7％となっています。

農業は、野菜・花きなどの都市型農業や酪農が活発で、今後もこの特性を活かした農業の振興が期待されます。

特に、東部地域は緑区や花見川区の一部の地域とともに、本市における主要な農業地域で、農家数、経営耕地面積はともに市内の約4割を占め、また、複合型植物工場を有する農政セン

ターや乳牛育成牧場などの施設もこの地域に立地しています。

工業の集積は、他区と比較して相対的に低く、1997年（平成9年）末で、市内の工業事業所数の約12％、従業者数は約7％、製品出荷額は約3％となっていますが、近年は区北東部の上泉・下泉地区に、ちばリサーチパークの整備が進められています。

商業については、小売店立地数は約1,000店で花見川区や稲毛区と同水準ですが、年間販売額は両区よりも若干少なくなっています。



豊かな緑と貴重な歴史・文化遺産を保全・活用するとともに、都市部と農村部の交流を図り、良好な自然環境を確保しながら、計画的な市街地の誘導を進め、次の将来像の実現を目指します。

## 「豊かな自然と歴史と文化にはぐくまれた ふれあいのまち 若葉区」



泉自然公園



御成街道

## 施策の展開

### ●生活基盤整備の推進

放射道路の交通負荷を軽減するため、磯辺茂呂町線、源町大森町線などの環状道路や既存放射道路のバイパス機能を有する都市計画道路の整備を推進します。

また、交通不便地区の対応としてコミュニティバスの運行の充実を図ります。

上水道の安定給水の確保及び未給水区域を解消するため、第3次拡張事業を推進します。

公共下水道の整備を推進するとともに、降雨時の浸水被害に対応するため貯留浸透施設を設置するなど、雨水流出抑制を図ります。また、坂月川、支川都川の流水機能向上のため、引き続き改修整備を推進します。

農業用排水路の水質保全と農村生活環境の改善を図り、併せて公共用水域の水質保全に寄与するため農業集落における污水处理施設の整備を進めます。

また、農村地域の広範に存在する農業水利施設の有する水辺空間等を活用し、豊かでうまいのある快適な生活環境を整備します。

### ●農を活かしたまちづくり

地域の特性を活かした生産性の高い農業経営を確立するため、畑作地帯の総合的な土地改良を推進するなど、生産基盤の整備を図ります。また、農地の保全・確保に努め、農業の担い手に農地の利用集積を推進することにより、経営の安定と農地の遊休化の防止を図ります。

また、環境保全型農業を普及促進し、環境負荷の軽減に配慮した農業の振興を図ります。

貴重な緑地環境への関心の高まりを踏まえ、農地・森林等の限られた資源の有効利用やいずみグリーンビレッジ構想など、都市と農村の交流を通じて地域の活性化を図ります。

また、市民が気軽に農業が体験できる市民農園等の整備を推進します。

### ●歴史と緑を活かしたまちづくり

世界的に有名な加曽利貝塚や坂月川及びその周辺の良好な自然環境の保全と活用を図りながら、体験学習型の歴史公園として、「縄文の森」を整備します。

また、「縄文の森」の中心となる加曽利貝塚博物館の機能をさらに充実させた貝塚総合博物館の建設を推進するとともに、民俗資料・郷土資料・古民家などの歴史的遺産を調査・保全し活用を図ります。

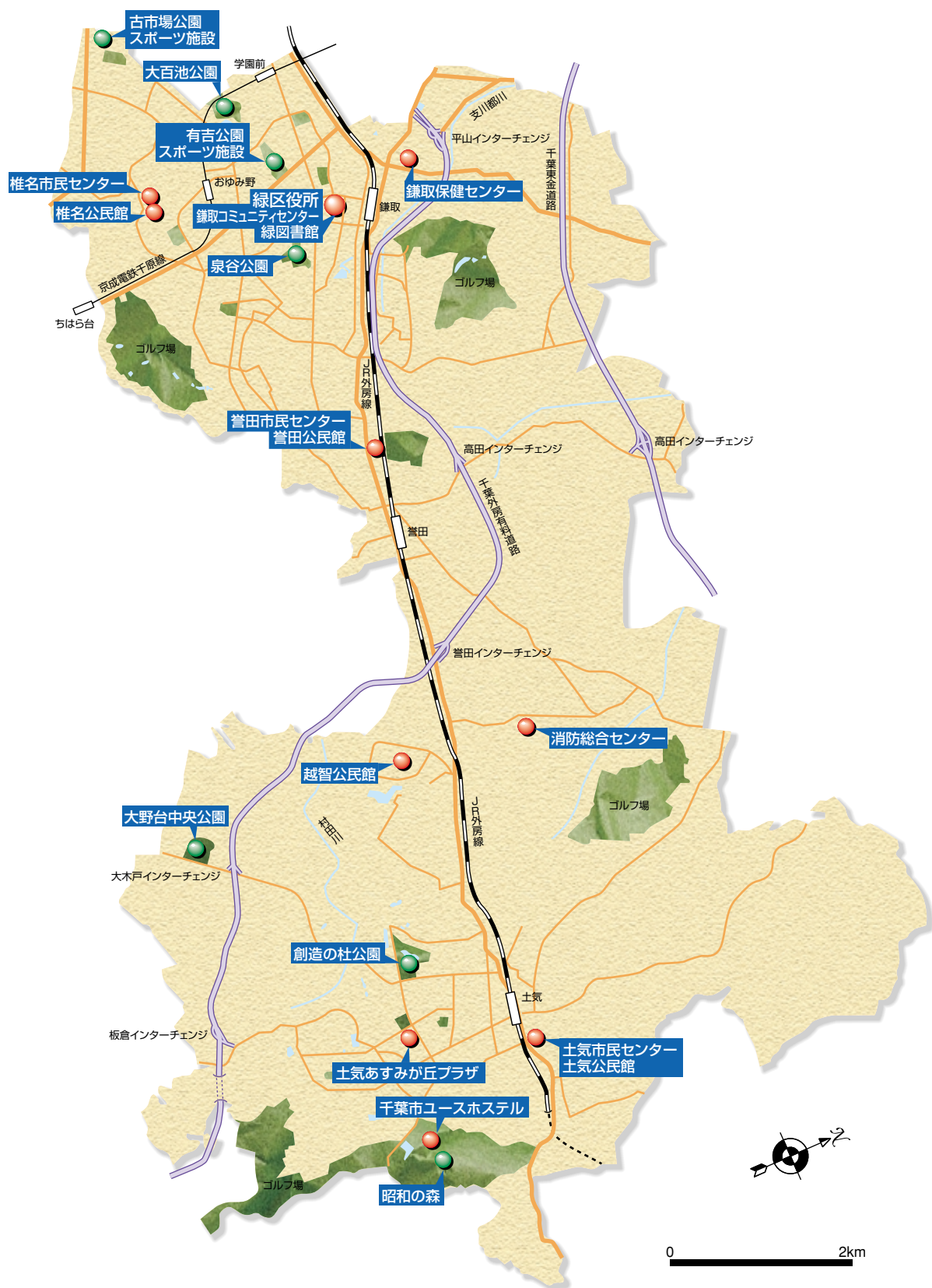
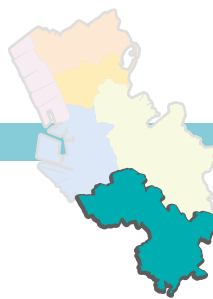
都川の治水対策事業の一環である遊水地を親水公園として、水辺空間やスポーツ・レクリエーション施設等の整備を進めます。また、動物公園、泉自然公園の施設の充実を図るとともに、坂月川のフラワー散歩道の整備を進めます。



千葉市動物公園



# 緑 区





## 現況と課題

### ●人口・世帯数

(単位：人、世帯)

区分	1995年 (H7)	2015年 (H27)
人口	82,780	170,000
世帯数	26,225	59,000

1995年（平成7年）10月1日現在の緑区の人口は82,780人（全市の9.7%）、世帯数は26,225世帯（全市の8.3%）であり、人口、世帯数いずれも第6位となっています。

### ●土地利用

本市の東南部に位置し、若葉区に次ぐ面積66.41km<sup>2</sup>を有する地域であり、区の東部は東金市・大網白里町、南部は市原市・茂原市と接している地域です。



泉谷公園

また、区域で最も広い割合を占めるのは山林の約28%であり、次いで畑地の約21%、住宅用地の約11%となっています。自然的土地利用の比率が高く、自然環境に恵まれた地域となっています。

JR外房線沿線では、東南部や土気南地区等の土地区画整理事業によって、良好な住宅地の形成を目指し、大規模な宅地開発が進められています。

区の南部では、千葉土気緑の森工業団地が立地しています。

### ●生活環境

区の中心部を東西にJR外房線、千葉外房有料道路、主要地方道千葉大網線等や、西端部には京成電鉄千原線が通っています。この鉄道駅を拠点として、住宅地の整備が進められており、特にJR鎌取・土気駅の南側では、大規模な宅地開発が進められ、この地域を中心として人口の増加がみられます。

また、JR外房線以北では農村地帯が形成されているとともに、東部の昭和の森をはじめとした市民の憩い・レクリエーションの場となる公園が整備されています。



おゆみ野

## ●産業

1995年（平成7年）の本区の従業者数を見ますと、サービス業が約35%、卸売・小売・飲食業が約23%を占め、次いで建設業が約14%、製造業が約8%となっています。

緑区は若葉区と同様、市内における農業地域としての重要な役割を担っており、米、野菜、酪農等の農業が活発に営まれています。農家数、経営耕地面積は市内の約3割が本区に分布しています。

工業においては、他区と比べ相対的に低い位置にありますが、新たな研究開発型産業の振興を目指し、千葉土気緑の森工業団地の整備が進められています。

商業は、鎌取、誉田、土気のJR各駅周辺に小売業中心の集積が見られ、他の区と比較して、規模の小さいものが多い状況です。また、最近の大規模な宅地開発により、大型店の進出が見られます。

## 区の将来像

多くの山林、畑地、田地などの自然環境を保有しており、区の自然と調和した、区民がふれあえるまちづくりを進めるため、次の将来像の実現を目指します。

# 「みずみずしい自然と暖かい心に包まれた 次世代に誇れるまち 緑区」



昭和の森



千葉国際クロスカントリー大会

## 施策の展開

### ●地区に根ざした文化の育成

コミュニティセンターや公民館等の市民交流施設の活用、\*区民ふれあい事業などにより、区民相互の交流や連帯意識の高揚を図り、ふれあいの輪をはぐくむ地域づくりを進めます。

日常的な活動・発表・鑑賞の場として、地域の特性を活かした文化施設整備を進めるとともに、民間施設の積極的な活用を図ります。

### ●豊かな自然を活かしたやすらぎのあるまちづくり

豊かな自然を保全し活用するとともに、良好な住環境の整備や都市農林業の振興に努め、自然とのふれあいが深まる地区の形成を図ります。

昭和の森の施設の充実や自然緑地を活かした公園の整備に計画的に取り組むとともに、支川都川のフラワー散歩道の整備を進めます。

また、都市と農村の交流を通じて地域の活性化を図るため、市民が気軽に農業が体験できる市民農園等の整備を推進します。

森林を市民生活における快適性・安全性など、将来にわたり良好な都市環境資源として位置付け、市民に森林の役割を啓発・普及します。

また、滞在型観光の施設として、ユースホステルを近代的で魅力ある施設として整備するとともに、多様な野外活動の高まりに対応する屋外施設を整備し、緑豊かな自然に囲まれたレリクエーション地域の形成を図ります。

### ●安全で快適な生活環境の整備

区内道路網の整備のほか、主要地方道千葉大網線の交通渋滞の緩和や駅・インターチェンジへの連絡強化に資する交通基盤整備を推進するとともに、京成電鉄千原線の複線化に努め、交通利便性の向上を図ります。

快適な生活環境の創出や健全な都市活動を確保するため、公共下水道の整備を推進します。また、周辺環境との調和に配慮した斎場会館の整備を図ります。

大規模な宅地開発が進められている千葉東南部（おゆみ野）及び土気東土地区画整理事業を促進し、良好な住宅地の供給に努めるとともに、JR 菅田駅の橋上化をはじめとした駅周辺整備を図ります。

農地・山林の保全や活用努めるとともに、公園・緑地や水辺等の整備保全や市街地内の緑化の推進を進め、良好な都市環境の形成を図ります。

農業用排水路の水質保全と農村生活環境の改善を図り、併せて公共用水域の水質保全に寄与するため農業集落における污水处理施設の整備を進めます。

また、農村地域の広範に存在する農業水利施設の有する水辺空間等を活用し、豊かでうるおいのある快適な生活環境を整備します。

上水道の安定給水の確保及び未給水区域を解消するため、第3次拡張事業を推進します。

### ●活力ある産業の振興

活気ある産業の育成に向けて、自然を活かした都市農林業の振興や研究開発型産業の集積を図ります。

このため、優良農地の保全、農業基盤の整備、集団化に努めるほか、環境保全型農業を推進するとともに、農業生産機能と居住機能等に配慮した総合的な集落環境の整備を進めます。

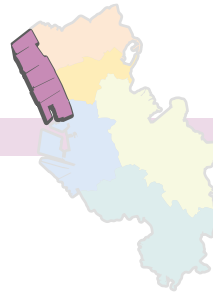
また、貴重な緑地空間として、森林の積極的な整備・保全及び活用を図ります。

研究開発型産業や付加価値の高い都市型産業など新たな産業の創生を目指します。

拠点地区の商業機能の充実に努めるとともに、地域商店街の活性化を進めます。



# 美浜区



## 現況と課題

## ●人口・世帯数

(単位：人、世帯)

区分	1995年 (H7)	2015年 (H27)
人 口	128,732	150,000
世帯数	45,955	60,000

1995年（平成7年）10月1日現在の美浜区の人口は128,732人（全市の15.0%）、世帯数は45,955世帯（全市の14.5%）であり、人口、世帯数いずれも第5位となっています。

## ●土地利用

美浜区は、区域面積21.16km<sup>2</sup>の全域が昭和30年代以後に埋め立てられた土地で、中央部に花見川が流れ、東京湾に注いでいます。海岸線に沿って人工海浜である幕張の浜、検見川の浜、いなげの浜が整備されて市民の憩いの場となっています。

田・畑・山林などが全くない一方、市平均の約2倍に相当する、区面積の20%を超える道路用地、10%を超えるオープンスペースなど、埋立により計画的に整備された美しい街並みが形成されています。

土地利用上、大きく3つの地域に区分できます。

花見川以北の幕張新都心地域は、幕張メッセを中心とする業務地区、ホテル街、千葉マリンスタージアム、放送大学などの高等教育機関さらには、住宅地区である幕張ベイタウン等が立地しています。

中央部地域は、区役所、郵便局などの行政サービス施設、東京歯科大学と付属病院、中央卸売

市場などが立地し、周辺には住宅地が広がっています。

南東部地域は、新港の食品コンビナートを中心とする工場地帯で、食品関連工場のほか、大手自動車会社の新車整備工場や、石油貯蔵施設などが立地していますが、近年、食品工場の市外への移転に伴う工場の跡地利用などの課題が発生しています。

## ●生活環境

区の全域が公有水面の埋立により整備されたことから、道路や公園などのオープンスペースが、市平均のほぼ2倍、区の面積の30%を超えるという良好な居住環境に恵まれるとともに、様々な公共公益施設や身近な商業施設などが計画的に配置されており、すぐれた生活利便性をもっています。

また、海岸沿いに人工海浜を造成し、整備された稲毛海浜公園や幕張海浜公園は、市民にとって特に人気の高い公園となっています。

しかしながら、老年人口が少ない若い区であり、高齢者のニーズに応える施設整備の不足がみられ、高齢化社会への対応が急がれているとともに、人間的なふれあいの場となる地域コミュニティの醸成が求められています。



千葉マリンスタージアム

## ●産業

1995年（平成7年）の本区の従業者数を見ますと、サービス業が約36%、卸売・小売・飲食業が約26%を占め、次いで製造業が約15%、運輸・通信業が約10%となっています。

美浜区における商業・業務の拠点の1つである幕張新都心では、東京や成田へ30分という近接性の高さを活かし、国際交流都市・産業創出都市・文化創造都市の形成を目指して都市づくりが進められています。

中央区との隣接部を中心に、食品コンビナートをはじめ印刷・塗装・運輸・自動車などの企

業が立地しており、美浜区の工業製品出荷額は1997年（平成9年）末で市内の約28%を占めています。

製品出荷額では、食品関連産業が約72%と第2位の鉄鋼・金属製品等の約13%を大きく上回り突出して大きくなっています。また、美浜区全体でみると、事業所の従業者数、工業製品出荷額から見て、事業所規模が大きいことが示されています。

食品コンビナート地区では、将来の操業環境の不透明さから転出企業もみられ、また、幕張新都心地区の企業進出も経済環境の悪化から停滞しており、その対応等が課題となっています。

## 区の将来像

区の特徴である水際線と幕張メッセを中心とする国際的業務機能を活用し、ゆとりある空間を子どもから高齢者まで、様々な区民に提供していくことにより、次の将来像の実現を目指します。

# 「浜辺の魅力と国際性にあふれ 安心して暮らせる夢あるまち 美浜区」



幕張新都心



花の美術館



## 施策の展開

### ●安全な暮らしのための環境整備

高齢者・障害者等に配慮した安全な移動空間を整備し、バリアフリーのまちづくりを推進します。

また、液状化対策への取り組みとともに、災害応急対策施設の設置、防災備蓄品の確保など防災体制の整備に努めます。

### ●住環境の整備

昭和40・50年代を中心として供給された住宅団地地域は画一的な景観を呈しており、老朽化・居住者の高齢化などが問題となりつつあることから、高齢者の暮らしやすい住環境の整備に努めます。

### ●水際線の整備

稲毛海浜公園、千葉マリンスタジアム等の施設の充実を図るとともに、砂浜プロムナードの整備等によって、水際線を活かし、市民が水辺にふれあえるまちづくりを推進します。



稲毛ヨットハーバー

### ●賑わいと活力のあるまちづくり

幕張メッセを中心とする新都心地区を国際交流拠点として、その特性を活かした都市づくりを進め、世界への窓口とします。また、新たな機能の集積や新しい交通システムの整備により、一層の活性化を図ります。

JR京葉線各駅を中心とする高洲・真砂地区の拠点性を高め、商業・行政・交流機能などそれぞれの集積特性を活かした整備や、バス交通のネットワークの強化などに努めます。

また、新港地区の活性化の促進に努めます。

さらに、市民参画を促すためネットワークづくり、各種イベントや文化行事を支援することにより区民の郷土意識や街の魅力の高揚を図ります。



いなげ・検見川・幕張の浜